

# 日本少年野球選手権

# 福井中学ボーイズ栄冠

福井県勢として3年ぶりの優勝を飾った福井中学ボーイズ。6日、大阪市の大阪シティ信用金庫スタジアム(谷口春馬撮影)



中学硬式野球の日本少年野球選手権決勝は6日、大阪市の大阪シティ信用金庫スタジアムで行われ、福井県勢の福井中学ボーイズが初優勝した。県勢が優勝するのは、2015年の鯖江ボーイズ以来、3度目。【16面に関連記事】

決勝は武蔵狭山ボーイズ(埼玉県)と対戦した。福井

中学は一回に2点を先制されたが、二回に1点を返し四回には森下恵久選手の2点適時打で逆転。先発のエース八木歩投手が二回以降は無失点に抑え、3-2で勝利した。

大会は2日に開幕。全国41支部の予選を勝ち抜いた48チームが出場し、トーナメント戦で競った。(谷口春馬)

中学硬式野球の日本少年野球選手権の決勝は6日、大阪市の大坂シティ信用金庫スタジアムで行われ、福井中学ボーイズが初優勝を飾った。決勝は武蔵狭山ボーイズ(埼玉県)に3-2で逆転勝ちし、県勢として3年ぶり3度目の頂点に立った。

〔谷口春馬〕  
〔1面に本記〕

# 投打の粘り本領

## 福井中学ボーイズ全国V



### 埼玉代表下す

福井中学は0-2の二回、丹尾の二塁打と犠打で1死三塁とし、八木の中前打で1点を返した。四回には向嶋、丹尾の安打などで1死一、三塁とする。森下が右中間を破る2点適時打を放ち、試合をひっくり返した。先発八木は一回に2失点したが、二回以降は粘り強く投げた。走者を背負

負ってから力のある直球で詰まらせ、本塁を踏ませなかった。最後は空振り三振で締め、マウンドに歓喜の輪が広がった。

◆…県勢の記録…◆  
▼1回戦 福井中学ボーイズ7-15佐賀玄海ボーイズ(西九州)  
▼2回戦 福井中学ボーイズ9-8千曲ボーイズ(長野県)  
▼準々決勝 福井中学ボーイズ9-6東京城南ボーイズ(東京都東)  
▼準決勝 福井中学ボーイズ2-1小山ボーイズ(栃木県)  
▼決勝 武蔵狭山ボーイズ(埼玉県)2000000002  
01020000××33  
福井中学ボーイズ  
(武)須貝、渡邊、江原  
(福)八木、丹尾  
▼二塁打 向嶋、丹尾、森下(福)

福井中学は6年ぶり2度目の出場。1回戦から準決勝までは3点差内の接戦を制した。決勝も逆転で競り勝ち、勝負強さを発揮した。

打てばヒーローになる

打席に力が入っていた。1点を追う四回1死一、三塁。一打逆転のチャンスに森下は「自分でどうにかしようと思って力んでいた」。わずか2球で追い込まれると、たまたま木津監督はタイムを要求し、森下を呼んだ。

「何を狙ってるんや」

「外野フライです」「逆風の中お前の力じゃ無理や」「じゃあ内野の間を抜きます」。言葉を交わしていくうちに森下の顔に笑みが広がった。

1球ファウルにし、続く低めの変化球に反応した。「持ち味の巧みなバットコントロール」(木津監督)で拾い上げた打球は、鋭く右中間を割った。三走に続き、一走もホームイン。逆転の2点適時打に「絶対に諦めない」

## 組織力で全試合逆転

い。自分たちの野球ができた」(森下)。

主将の兵は言う。「個の力があるチームではない。一戦ずつ勝つことにまとも強くなった」。1回戦から全試合を逆転で勝ち上がったナインには、劣勢をはね返す底力があった。「打線が逆転すると信じていた」とエース八木。何度も何度もピンチを防ぎ、ここぞで打線が決める。大会を通して発揮した「驚異の粘り」を大一番でも十二分に見せつけた。

「日本一になる」。昨年コーチから昇格した木津監督は選手に、自らに言い聞かすように繰り返した。この夏、一気に頂点に駆け上がり選手が本当に頑張った」と感無量の様子。くしくもこの日が28歳の誕生日。若き指揮官にとっても人生で一番のプレゼントになった。

〔谷口〕

福井中学―武蔵狭山 4回福井中学1死一、三塁、森下が2点適時打を放ち3-2と逆転する。大阪市の大坂シティ信用金庫スタジアム

〔谷口春馬撮影〕